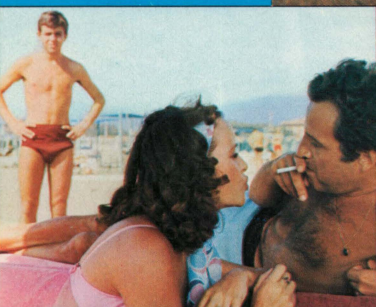


彼の一途な情熱に
私は負けてしまいそう
愛される女の喜びを夏の日
教えてくれた彼は義弟……

ラウラ・アントネッリ

アレックス・サンドロ・モモ / オラジオ・オルランド
リッツ・ブリグノン / ティーノ・カルラロ / ニーノ・トッフォロ

製作シルビオ・クレメンテッリ / クレシ・シネマトグラフィカ
原作サルバトーレ・サンペリ / オッタビオ・ジエンマ
脚色オッタビオ・ジエンマ / アレッサンドロ・パレンゾ



続 青い体験

テクニカラー

サルバトーレ・サンペリ監督・作品

Peccato Veniale

From Warner Bros. A Warner Communications Company

ワーナー・ブラザース映画

8月9日(土)よりロードショー
*ご鑑賞券800円(一般・学生1000円/中・高生900円の差)発売中
連日 10:00 11:50 1:50 3:50 5:50 7:50

国電有楽町 朝日新聞社裏

伊勢丹斜め前

渋谷東急文化会館5階

丸の内松竹
(201)3720

新宿京王
(356)3518

渋谷東急
(407)7029

僕は…お義姉さんを愛してしまった——



ラウラ・アントネッリ主演

続青い体験

〈テクニカラー〉

＊かいせつ

美しい兄嫁がやって来た。出張がちな兄は弟に「自分が留守の間はいつも彼女と一緒にいて目をはなすな」と言いつけた。その日から忠実な騎士(ナイト)のように兄嫁に仕える少年の心は微妙にゆれ動いていく——。思春期の少年が一度は体験する性への憧れ・不安を前作では義母さんと相手に今回は義姉さんとを相手に、イタリア人特有の陽気さと少年のナイーブな感情をミックスして、独特な映像の世界を作り上げた監督のサルバトーレ・サンペリは今年31歳という若さだが、23歳の時からイタリア映画界の第一線に立って活躍して来たというだけにキャリアは充分。前作同様今回も彼自身が原作を書いている。

主演は前作「青い体験」の世界的大ヒットで一躍スター・ダムにのし上がり、日本でも間い合せが殺到しているラウラ・アントネッリとアレックス・サンドロ・モモ。二人を囲んでオラジオ・オルランド、前作で祖母役を演じたりッラ・ブリグノンが母親役で、前作同様アレックス・サンドロ・モモの友達でステファニー・アマト、ほかティニーノ・カルラロ、ニーノ・トッフォロら多彩な顔ぶれが演技を競い、前作を上回る出来映えにイタリアをはじめヨーロッパ各地では爆発的な大ヒットを記録した話題作である。

なお、製作は前作同様シルビオ・クレメンテッリが担当しているほか、前作で脚色を担当したオットー・ジェンマが今回は原作でサンペリを助け、脚色ではアレックス・サンドロ・パレンツォの協力を得て息の合ったところを見せている。音楽も前作同様フレッド・ボンガストが担当。撮影には新たにイタリア映画界でも屈指の名カメラマン「悲しみは星影と共に」「デカメロン」などのトニーノ・デッリ・コッリを迎え見事な成果を上げている。
(上映時間・1時間37分)

＊ストーリー

夏の訪れとともに、ここ南イタリアの小さな海辺の町は、海水浴を楽しむ人々にぎわいだす。いま青春の真最中のサンドロ(アレックス・サンドロ・モモ)もいつものように友達と一緒に悪戯さかりを楽しんでいた。だが今年は話がちょっと違う。父(ティニーノ・カルラロ)と母(リッラ・ブリグノン)と兄オラジオ・オルランドの四大家族のサンドロの家に新しい家族が加わったのだ。兄のレンツォのお嫁さんラウラ(ラウラ・アントネッリ)である。セールスマンという仕事の関係上、どうしても家をあける時間の多いレンツォは、自分の留守中はラウラにつきっきりで絶対に彼女から目をは

なすんじゃないとサンドロに言いつけた。

その日からサンドロは奴隷に、ラウラは囚人のようにどこへ行くにも二人一緒に行動するようになった。ラウラはいつも自分が見張られているということに不満を抱きながらも、サンドロを頭から子供扱いで可愛がり、平気で身体に日焼け止めクリームを塗らせたり、沖合までこぎだしたボートの上でサンドロを背に全裸で日光浴をせしめたりする。若いサンドロが性にめざめていくのも不思議ではなかった。

そうなるのと今まで気にならなかった兄の帰宅が気になりだした。まずい事にはサンドロと兄のレンツォの部屋は隣り合わせ、レンツォが帰ってくるたびに、毎夜聞こえてくる声にサンドロは気も狂わんばかりになるのだった。

ある夜サンドロはナイトクラブへ連れて行かれた。そこで初めてサンドロはラウラとダンスをし、積極的にアタックを開始した。まんざらでもないラウラの態度に有頂天になったサンドロは、二人の関係を兄に知らせてラウラと別れさせようと出張先に電話をするが、疲れ切って眠っていたレンツォは、サンドロの言う人妻が、自分の妻の事とは思わず「ドンドンやれ」と言うしまつた。

父も母も出かけた日曜の朝、とうとうサンドロはラウラに迫った。ちやうどその時レンツォが帰って来たが、サンドロにはもはや自分のことではできなかった。激しい抵抗はしたものの、ラウラとしても、若いサンドロの一途な情熱を内心憎みながらも思っていただけに、ついにサンドロに組み伏せられてしまった。

その時、レンツォはすぐ部屋の扉まで来ていたがラウラのとっさの機転でバレーに済んだ。

その夜、サンドロはいつものようにベッドにいる二人を見て、いたたまれずに家出した。翌朝、人妻とのことで悩んでいたというレンツォの言葉に心配した父母は、警察へ連絡しようかとするが、ラウラには心あたりがあるらしく、浜辺の方へ捜しに出た。ラウラの予想どおりサンドロは浜辺のバンガローにいた。ついにそこで二人は結ばれた。だがサンドロの嬉びもつかのま、ドアの外には父と母と兄がやって来ていた。サンドロはあわてずに窓からぬけだすと、別の方向からなにくわぬ顔で浜辺で待つ皆んなの所へ近づいて来た。その日、サンドロの家では、サンドロが大人になったお祝いをはじめた。乾杯の音頭はレンツォである。「我が弟サンドロにセックスを教えてくれた優しい人妻の、何も知らないマヌケな夫に乾杯!」サンドロとラウラは思わず顔を見合せて笑うのだった。